

西播菌類誌資料(1)

横山了爾

Materials for the fungus flora of regional Seiban.

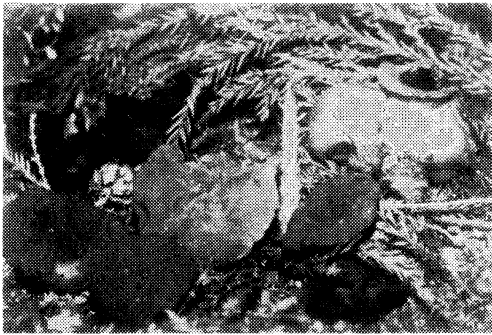
Ryouji Yokoyama

フクロシトネタケ

Discina perlata (Fr.) Summa Veg.

昭和57年5月3日に上郡町野桑の白旗山登山道わきの杉林で採集した。そこは、シイタケの栽培がなされており、楯木のならべてある通り道にクリイロチャワンタケの群生にまじって、生えていた。杉の落葉があり、よく肥えた土から、2カ所で4~5個づつ群生して生えていた。

子実体は3~8cmの凹レンズ型である。大型のチャワンタケによく似ているが、茶碗状にならないのですぐ区別ができる。子実層のある上面は暗褐色である。若い時は平らなものが多いが、大きくなると少しへっこむ。中央にむかって、深いしわがあることが多い。下面は白っぽく、かなり厚い肉質である。深いまぞのような切れこみが、根もとが細まるにつれて、縦にできる。

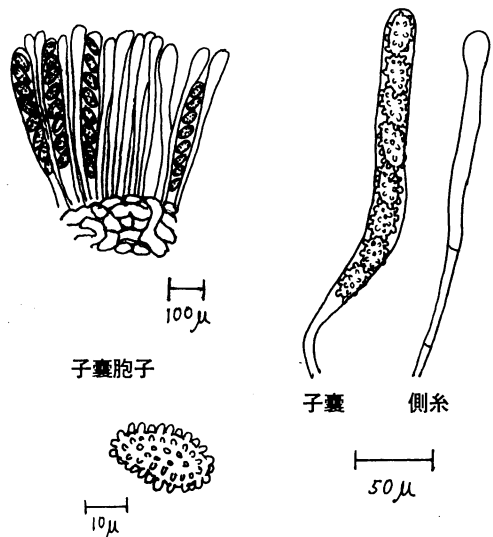


杉林に生えるフクロシトネタケ



ビニールハウス内に生えるツクシタケ

子嚢は円筒形で、8個の子嚢胞子を持つ。子嚢胞子は楕円形で $25\sim 35\mu \times 8\sim 15\mu$ の大きさである。全体に棘をもっており、無色である。側糸は、先端がふくれ、棍棒形で長い。



フクロシトネタケの子嚢と子嚢胞子

ツクシタケ

Lysurus borealis Burt.

昭和55年3月上旬に掛保郡太子町矢田部にて、西尾裕介氏により採集された。ゴクラクチョウカ (*Strelizia reginae* Banks) を栽培しているビニールハウス内の地上に生えていた。土壌に肥料として、馬や牛の糞を多量に入れられている。飼料の中に含まれていた胞子が、牛や馬に食べられ糞の中に捨てられ発芽したものと思われる。

子実体は2月頃より5月初旬まで地上にぼつぼつと生える。卵は土壌中0.5cm~2cmの深さに埋まっており、直径1cm~3cmの白い球形である。太い白い菌糸が卵の下端から地中にのびている。卵を縦断すると、中軸下部に白色の圧縮された茎、上部に白色の腕とその内側に黒褐色のグレバの固まりがある。腕は先端部で互いに結合しない。

これらの外側に厚い寒天質が見られる。殻を破って生長した子実体は、腕、茎、つぼからなり、高さ3～8cmに達する。茎は円筒形でスポンジ状になっており、小さな穴が一杯ある。初め白く、古くなると淡オレンジ色になる。茎の先端部に普通6本の腕をもつ。腕の長さは、1～2cmで、レンガ色をしておりツノツマミタケによく似るが、先端部で決して結合しない。各腕は、外側に縦に走る1本の深い溝をもつ。内側は横に平行に走るたくさんの皺をもつ。腕の内側は黒褐色～緑褐色のグレバがつき、くさい臭いがする。若い時は、グレバを抱きこんだまま腕をとじている。雨の日に、腕が開き、胞子が洗い流される。胞子は、くさい臭いにひかれてやってくるはえのような昆虫と雨水により散布されると考えている。胞子は小さくて6～4 μ ×1.5～2.5 μ 細長く、表面はなめらかである。



ツクシタケの卵



ツクシタケの胞子

付記

本稿は滋賀大学教育学部横山和正先生と京都市教委吉見昭一先生のご指導を得て完成しました。ここに厚く御礼申し上げます。